



優秀賞



千葉市ふるさと農園の管理運営

株式会社塚原緑地研究所

斉藤久芳・佐久間徹・金井拓見・塚原道夫

「千葉市ふるさと農園」は、千葉市都心部の北約7.5キロに位置する「都市と農業のふれあいの拠点施設」です。市民が農作物の栽培、加工実習等の農業体験を通じて、農業を理解するとともに、レクリエーションやコミュニティの場として活用されています。

全面開園から約26年経過した2018年、千葉市は施設の

あり方の検討を踏まえ、「民間のノウハウを活用した利用者の増加と満足度の向上」「市民農園や食の体験等の自主事業による賑わい創出」という新たな目標ミッションを設定し、指定管理者の再公募を行いました。

私たちは、「民間パワーで公共施設を活性化して、地域を元気にする」を基本コンセプトに掲げ、「施設の利用促進の方策」と「賑わい創出のための自主事業」を提案し、選定委員会による審査の結果、次期指定管理者（19～23年度）に選定されました。

作品概要

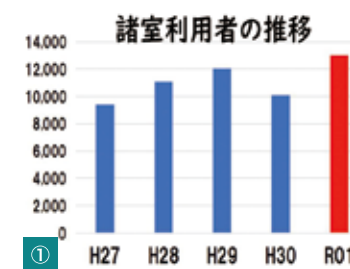
作品名—— 千葉市ふるさと農園の管理運営
所在地—— 千葉県千葉市花見川区三角町656-3
発注—— 千葉市
業務目的—— 指定管理者による賑わい創出
事業期間—— 2019年4月～2024年3月
事業規模—— 20,443㎡
主要施設—— ふるさとの館、BBQ場、市民農園等

作品評

本作品は、千葉市が「都市と農業とのふれあい拠点」として整備・運営・管理をしてきた「千葉市ふるさと農園」において、民間ノウハウの活用による①賑わいの創出に資する自主事業の展開、②利用者の増加及び満足度の向上、という課題に対応した指定管理者として参画したものである。

応募者は、豊かな経験を活かした提案を行い、参入して1年後には、貸出施設の利用者数や利用者の満足度などの目標値をクリアしている。栽培指導付き市民農園、バーベキュー場、ふるさとカフェ等の新設、フリーマーケットや軽トラ市、餅つきや芋ほり等の多彩なイベントの開催、ベビーベッドの設置、イベントに対応した早朝の施設開放、サインや施設のユニバーサル化といった各種サービスの向上、を進めている。

個々のプログラムに目新しい内容は見えないものの、こうした対応をきめ細かく、丁寧に実施し、確実な成果を上げている点が高く評価された。今後のモデルとして、期待される。



①利用者の推移 ②農園全体図 ③満足度の実績 ④BBQ場 ⑤市民農園 ⑥ふるさとカフェ ⑦千葉あそび ⑧春まつり ⑨収穫祭

2019年4月から指定管理者として、提案内容の具現化に向けて積極に取り組んでおり、市が設定した目標（利用者数）については、今年2、3月に新型コロナウィルスの影響でキャンセルが相次いだものの、初年度から達成することができました。また、利用者の満足度も、市設定目標90%以上に対し、実績98.4%を達成しています。

賑わい創出のための自主事業として、①「バーベキュー場」は古民家跡地等に面積約1,000㎡、席数20席、定員120人の規模で開設し、地域初のBBQ場として高評価、②「栽培

指導付き市民農園」は、圃場の一部に面積約1,500㎡、24区画（5×5m）を開設、栽培指導・種苗・資材・道具等を農園がすべて用意し、初心者でも安心して野菜作りが楽しめるので、子育て世代やシニア世代に好評、③「ふるさとカフェ」は、瀟洒な木造建築に囲まれた芝生の中庭にオープンカフェを開設、「中庭で飲むコーヒーは美味しい」と評判です。いずれも本施設初めての取り組みであり、賑わい創出と利用促進に寄与することが期待されています。